

アナログからデジタル時代へ。激変する時代と共に紙媒体を扱ってきた印刷業界は苦境にさらされています。そんな中、いち早く潮流を捉えて先進的な取り組みを重ねているのが日相印刷（南区麻溝台）です。今年60周年を迎える同社は、3年ぶりに実施された神奈川県優良工場表彰に選定されました。1964年の創業以来、ブレずに変わらないのは、地元相模原への郷土愛と「印刷で人を幸せにする」というコンセプト。社名の由来「日本の相模」を世界に飛躍させるべく、印刷メディアカンパニーとして、どのような取り組みを展開しているのでしょうか。

■地域活性事業に地域の未来を託す

同社は、相模原市印刷広告協同組合（官公需適格組合）に所属し、組合員と協力・連携しながら地域貢献を軸に事業を展開。主に市内外の大学など教育機関や製造業系企業向けに、会社案内や各種学校、製品カタログなどの商業印刷を中心とした総合印刷事業を行っています。

現在、新たな挑戦を重ねている同社の荒井慶太取締役は、事業継承のために2014年に入社する前までの20年間、塾やミュージカル、レストランを展開する企業の第一線で働いてきた異色の経歴の持ち主です。今では主

軸の総合印刷事業のほか、地域活性事業に力を入れ、さまざまな取り組みを打ち立てています。

例えば、地域活性教育事業では、相模原市印刷広告協同組合のシビックプライド醸成・SDGs推進委員会の活動ブログ



令和4年度神奈川県優良工場表彰式
於 神奈川県庁正庁 令和5年2月7日

ラムとして提案した「シビックプライド向上ゲーム」の審査が通り、23年4月より相模原市協働事業提案制度採択事業として本格化させる予定です。

このゲームは、元々相模原市60周年の冠商品として14年に開発した地元学習パズル&カード「ぴーしーず」を活用した教育プログラムです。相模原の22区域の形をそのままピースにしたパズルと、各ピースに連動した情報カードを使って、子どもから大人までが一緒に遊びながら学べるパズルゲームです。また、専用ウェブサイトでさらに学習を深められる仕組みもあり、紙の感触で右脳を刺激するアナログとデジタルを融合させた新タイプのプレイツールです。

荒井取締役は「『ぴーしーず』をきっかけに、地元大学との出前授業のコラボレーション企画など、さまざまな広がりも生まれています」と説明。今後産官学民連携で、全国に発信できる

地域の未来の種をまく 印刷メディアサービス

（株）日相印刷 取締役 **荒井 慶太**さん



シビックプライドを育成する相模原独自の地域学習アクティブラーニングプログラムに育てていきたいと意気込みます。

さらに、中学生向けの「職場体験」にも力を入れています。「企画から原稿作成の3日間の実践を通して、ものづくり

の喜びを感じて欲しい」と荒井取締役。地域の未来を担う子どもたちの人材育成にも地域の企業として一役買いたいと熱く語ります。

■紙媒体の価値を再び

「地域に根付いた本をなるべく安く出

したい」とプリント・オン・デマンド（POD）出版サービスも始めました。注文を受けた後に、書籍を一冊から印刷・出版できるので、在庫を最小限に抑えられるメリットがあります。

将来的には「さがみはら出版倶楽部」を立ち上げて、相模原市に関する書籍、市内在住・在勤の人を対象に書籍を無料で出版できる支援を行う構想を持っています。シビックプライドの醸成にもつながりたいと、どこまでも郷土愛を見せてくれました。